

取材のお願い

公益財団法人古川知足会
古川美術館分館爲三郎記念館

日本 最高峰 工芸の祭典 第 73 回日本伝統工芸展 名古屋展

2026.9.25 [FRI] – 10.5 [MON]



平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、古川美術館並びに分館爲三郎記念館にて「第 73 回 日本伝統工芸 名古屋展」を開催する運びとなりました。日本伝統王は人間国宝も参加する日本唯一の公募展です。今年も全国から、工芸品の最高峰の作品が集結します。是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

日本最高峰の祭典

日本伝統工芸展は、世界に卓越する日本の工芸伝統を守り、未来へと継承していくべく、工芸に向き合う作家たちが、自らお技を駆使して作品を制作し、それらの優美が公平に評価される公募展です。昭和 25 年に文化財保護法が施行され、芸術上、特に価値の高い工芸技術を国として保護育成する事となり、重要無形文化財が設立されました。重要無形文化財、いわゆる人間国宝の称号をもつ作家は、その技術を途絶えることなく、未来へと繋ぎ、さらに発展させる責務があります。そんな人間国宝さえも公平にジャッジされる日本で唯一の公募展が、この伝統工芸展です。全国から集められた選りすぐりの作品 180 点が名古屋に集結します。

(以下団体主旨)

我が国・日本には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受けついで優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。昭和 25 年、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。私どもは、その趣旨にそって、昭和 29 年以来、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の 7 部門にわたり、各作家の作品を厳重鑑査し、入選作品によって日本伝統工芸展を開催してきました。

このたび、第 72 回展を開催し、広く人々の御清鑑を仰ぎ、我が国工芸技術の健全な発展に寄与しようとするものであります。

日本工芸会総裁賞



花籠「濤声」大木 淑恵

2022 年から「日本工芸会」の総裁を務めておられるのは、秋篠宮佳子内親王です。総裁賞は実際に秋篠宮佳子内親王がお選びになって決定します。

躍動する波の表情を花籠に現した。籠の口元で外から内へ大きく入り込むように竹ひごを矯（た）めたことで、波の動きと竹の反発力が籠の内側に向かい、立体的で力感ある造形になっている。連続した傾斜が渦巻く波の動きを想起させ効いている。しなりのある竹の特性と作品のテーマ、そして籠の構造を一体に構成した意欲作である。

(島崎慶子評論より)

我らが誇る

東海支部幹事長

三彩皿 鈴木徹

深い青から土色へと移ろう大胆なグラデーションは、まるで大地と水がせめぎ合う瞬間を切り取ったようで、表面のうねりと相まって、静止しているのにとこか動的なエネルギーを感じさせます。

三彩という伝統的な枠組みの中で、色の勢いと質感の厚みを前面に押し出した造形は、

器でありながら抽象的な風景画のようにも見え、見る者に強い印象を残します。



名古屋展の見どころ

異例の二年連続受賞!!

日本工芸会保持者賞



櫨拭漆盛器「帆翔」川口清三

日本工芸会保持者賞は、ここ愛知の拠点をおく日本工芸会東海支部から選ばれました！受賞したのは川口清三先生。木竹工の削りの技術で本年、愛知県重要無形文化財に認定されました！その川口先生がなんと!!昨年に続き二年連続入賞を果しました!!
量感の豊かな造形に創意を重ねてきた作家だが、本作品は広やかな櫨材の四方盛器である。俄かの旋風で帆が孕み翔け進むイメージを元にして、空高くから俯瞰した大海のような木目が現れ、大きな弧が対をなしている。削りで見つけた木目を活かし、反りや丸みが異なる四隅も得ている。堅実な技量と造形への意識が明快である。
(諸山正則評論より)

快挙！東海支部から見事な受賞

日本工芸会奨励賞

木芯桐塑布和紙貼「リズム」 野田リツコ

今年の東海支部は勢いがあります。作家数が減少気味にある人形部会で、久しぶりの入選です。人形はそのものの表情もさることながら、その情景をいかに空気感に落とし込むかも大切です。人形の周りに景色や情景をジオラマの様に作ることが出来ないため、この一体で情景を感じさせなくてはなりません。その細やかな人物表現を御覧ください。
どこの街にもいそうな若者の姿。現代のなにげない日常を、伝統工芸としての人形はどう表現し、どう魅せることができるのか。その好回答ともいべき観察眼と巧みな技が光る作品である。この瑞々しさが喜寿を過ぎた作者の手になると聞けば、誰しも驚くだろう。パーカーとジーンズとギターケースの色彩比率も絶妙である。
(林 直輝評論より)



ベテランの究極美もご堪能あれ

愛知県重要無形文化財保持者 墨窓方硯 名倉鳳山

光を吸い込むような深い黒と、ひとつの丸みが生むわずかな起伏が、静謐な存在感と、空間に“余白の緊張”をもたらします。
道具の枠を超え、抽象彫刻のように佇むその形は、見る者の感覚を内側へと静かに導く、現代的で端正なオブジェとして紹介できます。

展覧会情報

名 称 第 73 回 日本伝統工芸展名古屋展 」

日 時 2026 年 9 月 25 日（金）～ 10 月 5 日（月）10：00 － 17：00（最終日は 15：00 まで）

休館日 9 月 28 日（月）

主 催 公益財団法人 古川知足会

後 援 公益社団法人 日本工芸会、愛知県、名古屋市、
名古屋市教育委員会、NHK 名古屋放送局、朝日新聞社

特別協力 日本通運株式会社

入館料 ①古川美術館と分館爲三郎記念館の共通券 一般：1,200 円 高大生：500 円

②美術館単館券 900 円

③記念館単館券 600 円

※①～③にかかわらず中学生以下は無料 ※②、③は年齢区分なし

お問い合わせ

公益財団法人 古川知足会 古川美術館分館爲三郎記念館 学芸課 052-763-1991

名古屋市千種区池下町 2-50

担当学芸員：林 奈美恵 mail: n_hayashi@furukawa-museum.or.jp